

# 現代日本若年女男「子育て」をめぐる3つのデータの考察

——「脱・過剰自己実現欲求」女?/「豊かな男」の新たなフロンティア?/

「生きづらい男」の最終アジール?——

鹿児島大学 桜井芳生

## 1 目的

現代日本若年女男「子育て」をめぐる3つのデータセットを通覧的に分析考察する機会を得た。筆者が寡聞であるためともおもうが、それぞれ未見と思える洞察がえられた。それらを類型に値するものとして列する。

## 2 方法

3つのデータセットをそれぞれ、線形重回帰分析し、通覧的に解釈を提起する。

## 3 結果

統計解析の結果は大会当日に示す。第二データの分析例のみ示す(右)。

## 4 結論

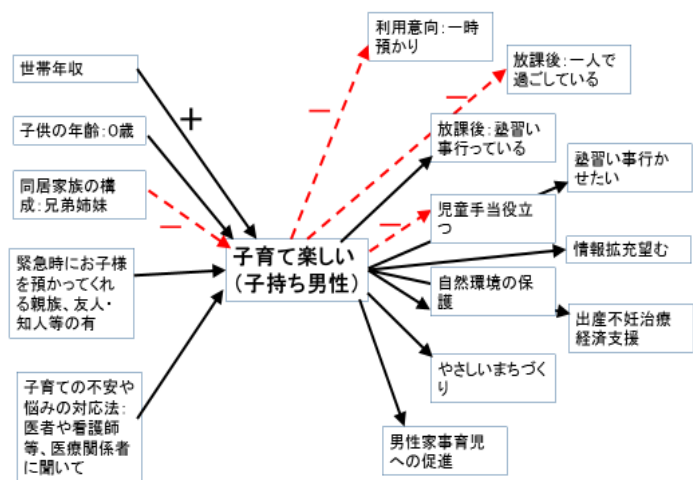
第一データ) 尾上は、「近代核家族はどこまで「近代的」か?」(尾上 2014)において、ヒトの性役割分業の人類史貫通的普遍性が、現在の考古学・古人類学では、定説となりつつある、という。生き

がいが子育てで終わっていいと感じている女性大学生ほど、生きづらくない、という最終分析結果が着目される。自分の「祖祖……祖先母」と同様のライフスタイルで満足し、過剰な自己実現欲求をもっていない女性が、生きづらく感じにくいのかもかもしれない。

第二データ) 子育てを楽しんでいる子持ち男性は、「リッチ・リソース(すでに豊かな資源をもっており)→ハイ・ダイヤモンド(そうでありながらもまた、要求水準が高い)」とまとめられるのではないか。子育ては、「豊かな男」にとって、新たなフロンティア?になりつつあるのかもかもしれない。

第三データ) 男性学生の場合、変数「生きづらい」と変数「子育てに生きがいを感じられれば」との関係が第一データ(女性学生)と完全に正負が逆転している。「中学時代の成績がよく(かつまたは)、地頭がいい(と自覚し)、高い地位をもとめながらも、現今の社会上状況では必ずしもうまくいきそうもなく生きづらいと感じている、そんな未婚男性が、いわば追い詰められながらも享受できそうな「生きがい」フィールド(アジール=安全逃避地)として子育てを見立てている、そんな図式を立ててみることはできるのではないか。 [yoshiosakuraig@gmail.com](mailto:yoshiosakuraig@gmail.com)

文献: 尾上, 正人. 2014. "近代核家族はどこまで「近代的」か? — 一夫一婦制・性役割分業をめぐる進化論争からの示唆—." in 第 87 回日本社会学会大会 研究報告題目・要旨. <http://www.gakkai.ne.jp/jss/research/87/42.pdf>. [二次分析]にあたり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから「子ども・子育てに関するアンケート (SRC 自主調査002)」、2012【特別データ】(株式会社サーベイリサーチセンター)の個票データの提供を受けました。記して感謝します。



(直線は正の関係、破線は負の関係)